

平成24年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成24年2月27日）

（代表）・一般 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質 問 要 旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>6. 県立大原高校、岬高校、勝浦若潮高校の統合について</p> <p>(1) 夷隅地域の「3高校をなくさないで」という地元の強い思いや願いを、県教育委員会はどう受け止めているのか。</p>	<p>1 夷隅地域の統合については、中学校卒業生数が今後10年間でピーク時の半以下になり、著しい減少が見込まれていることから、地域の高校生が将来にわたって活力ある教育環境の中で、多様な学びを支える豊かな高校教育を展開するために、提案したものです。</p> <p>2 実際、パブリックコメントでも、高校は一定の規模が必要であるとの意見が寄せられておりますが、地元の説明会や寄せられた要望書では、存続を求める声が多く出ており、これは地域の方々の地元校に対する強い愛着などの表れと受け止めております。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成24年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成24年2月27日）

（代表）・一般 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課

質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質 問 要 旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>6. 県立大原高校、岬高校、勝浦若潮高校の統合について (2) 海洋科学系列の廃止など、事実上、生徒たちの選択肢を奪うことになる統合はやめるべきと思うがどうか。</p>	<p>統合校では、3校の学びを可能な限り継承することとしておりますが、使用校舎を大原高校としていることから、水産の実習施設が遠距離になること、また、勝浦若潮高校の志願倍率が継続して低いこともあり、水産を学び、実際に水産業へ就業できる生徒も限られていることなどを考慮し、海洋科学系列を維持することは困難と判断したところです。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成24年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成24年2月27日）

〔代表〕・一般 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>6. 県立大原高校、岬高校、勝浦若潮高校の統合について</p> <p>(3) 小規模校の良さをきちんと評価して、上から学級規模で枠をはめるような適正規模という考え方はやめるべきだと思うがどうか。</p>	<p>1 高校段階においては、多くの友人・教師との触れ合いや切磋琢磨により、生きる力を育んでいくため、ある程度の学校規模は必要であると考えております。</p> <p>2 県教育委員会では、学校の活力の維持や、柔軟な教育課程の編成による選択幅の拡大など、多様で効果的な教育を展開するため、1校当たりの適正規模を、原則1学年4から8学級、都市部においては、6から8学級とし、学校規模や配置の適正化に努めているところです。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成24年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成24年2月27日）

（代表）・一般 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質 問 要 旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>6. 県立大原高校、岬高校、勝浦若潮高校の統合について (4) 統合により、「過疎化をますます助長する」という地元の心配を、どう受け止めているのか。</p>	<p>1 現行再編計画の前期分の評価では、統合を契機に、地域のニーズに応える取組や統合の良さを活かす取組など、積極的な学校改革が進められ、学校が活性化しているとの評価を得ています。</p> <p>2 今回の統合においても、これまで各校が長年に渡って築き上げてきた、地域との連携を継承するとともに、生徒が誇りを持って学校生活を送れるような、魅力ある高等学校を実現し、将来、地域のリーダーとして、地元積極的に貢献できる人材の育成に努めてまいります。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成24年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成24年2月27日）

（代表）・一般 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>6. 県立大原高校、岬高校、勝浦若潮高校の統合について (5) 夷隅地域の統合計画を撤回し、30人学級の実現や地域性を生かした教育条件の整備に力を入れるべきと思うがどうか。</p>	<p>1 高等学校においては、一定規模の集団の中で生活体験や社会性を身に付けることが重要であることから、40人学級編制を維持しながら、学習指導においては習熟度別授業、選択履修幅の拡大や学級を少人数の学習集団に分けるなど、少人数指導を推進しております。</p> <p>2 また、統合校で設置する総合学科では、地元の要望や地域の特性を生かして、普通科や園芸、観光、福祉などの学びを継承した系列を設けることとし、そのための新たな施設の整備や教職員配置を充実するほか、地域と連携し、地域の持つ高い教育力を活用するなど、教育条件の整備に努めてまいります。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>
<p>(再質問) 水産に関する教育についてどのように考えているのか。 今後、どのように水産に関わる子どもたちを育てていこうとしているのか。</p>	<p>水産教育の重要性については十分に認識しているところですが、高校卒業後、水産業界に就業することが難しいという現実もあります。</p> <p>今回の改革推進プランでは、館山総合高校、銚子商業高校に設置された海洋科について、進学も視野に入れた水産教育の推進や流通・販売等関連の業界にも対応した教育の充実を図るなど、今後も水産教育の充実を努めてまいりたいと考えております。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>
<p>(再質問) 統合後のクラス編成についてどうお考えか。 定員が減ると高校進学は狭き門となるがどうか。</p>	<p>3校の統合により、学校数は減少することになりますが、地域の高校教育の機会を保障することは当然のことであり、県立高校の募集定員は、各地域の中学校卒業生数や中学生、保護者のニーズ等を勘案して適切に設定してまいりたいと考えております。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>